

ことし生誕150年を迎えた偉人を挙げれば、一に夏目漱石、二に南方熊楠(くまのくま)だろうか。両者は一般の知名度で差がつく。それでも、南方はやはり「知の巨人」だ▼世界を飛び回って生物、博物、民俗学の研究をした。昭和天皇に進講したとき、採取した粘菌をキヤラメル(糖)の箱に入れて差し上げた、という逸話は特に有名だ▼「変わり者」と言つのは適切ではない。小さな世間の枠に収まりよらない人物だった。そう考えると、無類のあんパン好きだったのも、常識を超えていて面白い▼「作家のこちそう帖」(大本泉著、平凡社新書)によれば、研究で徹夜するときの常食が6個くらいのおまんぼ。日記にも頻出

越山若水

2017.8.28

するほどの「中毒」で思わず健康を心配したくなる▼甘党なら森鷗外もそう。だが、この文豪の好物は遠慮申し上げたい。まんじゅうのお茶漬(ぢやぢゆう)だけだ。ご飯の上にあんこの入った丸いのを載せ、お茶をかける。想像したくない▼もともと、人の嗜好(しやうご)に正解はない。食べ物に貴賤(きせん)もない。とやかく言つべきではないと知りつつ、あえて話題にしたい一品がある。福井産の最高級米「いちほまれ」だ▼つい最近、古米を試食した。ねっとり感が少なく、1粒ずつが上品に甘い。電子ジャーで炊いた家人が「釜にくっつかない」と驚いた。遠からず新米が出回る。高価になるだろう。中毒にはご注意をいただきたい。